

様式 5

西海ブロック推進会議漁業資源・海洋環境部会報告書

会議責任者	西海区水産研究所長
-------	-----------

1 開催日時及び場所 日時 平成23年11月10日(木) 13:30~16:50  
場所 長崎ブリックホール会議室

2 出席者所属機関及び人数 10機関 29名

3 結果の概要

議 題	結果の概要
1. 開 会	西海区水産研究所特任部長が開会を宣言。
2. 挨 拶	西海区水産研究所所長から水産資源及び海洋環境を巡る最近の情勢および部会の趣旨などの説明を含めた挨拶があった。
3. 座長の選出	西海区水産研究所資源海洋部長を座長に選出した。
4. 協議事項	
1) 研究開発の実施状況に関すること	各県および西海区水産研究所の研究課題を一覧表として提示するとともに、本年度実施課題(特に重点課題)についてそれぞれの機関から説明を行い、意見交換した。
2) 研究開発の成果に関すること	<p>漁業資源分野の成果が1件、海洋環境分野の成果が2件提出され、協議した結果、下記の修正等を行うことを条件に3件すべてが当ブロックの成果情報として承認された。</p> <p>ア) 東シナ海域におけるマアジの初期加入の変動要因(西海区水研)については、一部図説の表現を微修正する。</p> <p>イ) 地球温暖化による漁場環境・水産生物への影響調査(佐賀県玄海水産振興センター)については、表現上の微修正と研究担当者名の追加を行う。</p> <p>ウ) 亜熱帯沿岸域における低次生産環境の特性(西海区水研亜熱帯研究C)については一部表現の微修正を行うとともに、図が小さく見難いことから、見やすく改善する。</p>

<p>3) 研究開発のニーズと具体的な取り組みに関すること</p>	<p>平成22年度の研究ニーズ（山口県、2件）に対する対応結果について、以下の説明があった。</p> <p>アマダイ類の資源評価精度の向上については、関係する協議を山口県、長崎県、西海区水研で行った。山口県は延縄漁業や沖底情報を含めて独自に必要なデータを収集し沿岸の資源評価を、長崎県は県による資源回復計画の下でデータ及び標本収集と資源の管理を、西海区水研は水産庁委託事業に対応して、アマダイ類(東シナ海)の資源評価を実施した。県回復計画としての背景、水産庁事業の枠組み等がある中で、現在の資源評価内容を変更することは困難であるが、資源評価の対象、VPAの可能性についての協議を行った。</p> <p>「黒潮と対馬海流との関係の解明」については、各県の海況担当者と連携し、解析方法等を検討する海況情報分析検討会を開催した。今後西海ブロック漁海況モニタリング情報を活用した対馬暖流の指標作りを目指すとともに、各県地先漁海況との関係解明の解析を各県担当者とともに進めることとなった。</p> <p>平成23年度の研究ニーズとして、佐賀県玄海水産振興センターより、鳥取県、島根県、山口県、福岡県、佐賀県、長崎県及び西海区水研の連携を想定して、既往知見と環境データ、およびフィールド調査により生活史を明らかにして生活史モデルを構築する研究ニーズ「ケンサキイカ季節群の生態解明」が提案された。6県と西海区水研が参加するケンサキイカ資源研究会を活用しながら関係機関が連携して、課題化、予算化を含めた具体的な対応を検討することとした。取組方針（案）については、西海ブロック推進会議で再提示することとした。</p>
<p>4) その他必要と認められる事項に関すること</p>	<p>国際水産資源研究所くろまぐろ資源部竹内グループ長より、「西海ブロックでの国際水研が関係するマグロ類調査・研究」について発表がなされた。</p>
<p>5. その他</p>	<p>特になし</p>
<p>6. 閉 会</p>	